

とうきょう すくわくプログラム



『とうきょう すくわくプログラム』は、保育園、幼稚園の垣根を越え、すべての乳幼児の「伸びる・育つ(すくすく)」と「好奇心・探究心(わくわく)」を育むためのプログラムです。このプログラムでは子どもたちが主体的にそして仲間と協働しながら探究活動に取り組み、乳幼児期に養うことが大切とされている『自己肯定感』や『思いやり』などの『非認知能力の育成』をサポートしていくことをねらいとしています。





みどりの保育園では『自然』をテーマに探究活動に取り組んでいます。多摩市連光寺の豊かで恵まれた自然環境での活動、季節の野菜、草花の栽培、生き物の飼育、石砂土水、木の実などの自然物とレンガ、木材などの工夫しながら使える素材を保育者に見守られながら思いおもいに使える園庭環境を活かし、子どもの『やってみたい』『どうなるんだろう』『知りたい』などの思いを叶えられる環境を整えることを大切に考え日々保育を展開しています。そして活動を通して子どもたちの『心の育ち』『主体性』『人と関わる力』の育ちをサポートしています。



☆探究活動①『自然』 *季節の自然物（春）*



春の自然を園庭遊びや近隣の公園、さんぽの道中で見つけている子どもたち。各年齢ごとに見つけた自然物で探究活動をしています。



春の自然を園庭や公園で見つけました。1歳児クラスは「とげとげ」「柔らかい」などの感触や「〇〇色だね」と色合いなどを実際に触れながら感じています。幼児クラスはルーペを持参して自然物の観察をしました。「花の色が〇〇色と〇〇色に分かれてる」など拡大して観察することでの気づきもあったようです。



5歳児では「おさんぽの時にすぐに調べられるように自分の図鑑を作りたい！」とよく見かける春の草花をマイ図鑑に描いて、散歩のときに持参しています。



探究が進むにつれ、「食べられる草花もあるんだって！」と気づいた子どもたち。つくし、のびるを収穫して実際に食べてみることにしました。

☆まとめ&振り返り

身近なところにある自然を子どもたちが発見し『探究活動』が始まった。

乳児クラスは『感じる』ところから、幼児クラスは道具や環境を大いに活かしながらとそれぞれが自然に触れながら主体的にそして意欲的に活動する姿が見られた。

環境を整える事の大切さや子どもからの「こうしたい」「やってみたい」を叶えてあげる事の大切さを感じた。

今後も『探究活動』を子どもたちが行いやすいように環境を整えていきたい。